

成田空港周辺地域の将来像実現に向けた推進体制について(案)

実施プランにおいては、「地域の発展」と「空港の発展」が好循環する地域づくりを進めているところであり、今回改定予定の実施プランでは、地域の将来像として「空港を核として、都市と田園が調和し、くらしや産業の拠点として選ばれるエアポートシティ」を掲げることとしている。

また、7月3日に公表された『新しい成田空港』構想とりまとめ2.0において、「エアポートシティ」実現に向けて、県と空港会社が中心的役割を担う体制のもと、関係自治体と連携し検討していく姿が1つの方法として示されたところ。

これらを受け、エアポートシティのビジョンやゾーニング案の策定、実施プランに掲げる国際的な産業拠点形成、地域公共交通ネットワークの構築など広域的な調整が必要な取組を加速化するための推進体制について具体的な検討を開始する。

▶ 趣旨

成田空港の更なる機能強化や「新しい成田空港」構想などの大きな動きを踏まえ、実施プランを見直すこのタイミングを活かし、空港内外の一体的な発展に向けた具体的な取組を推進する必要があり、空港づくりを担う空港会社と、空港周辺の地域づくりを担う県が連携して取り組むことが不可欠であることから、県と空港会社が一体となった推進主体を中心とした体制の検討を行うもの。

ついては、令和6年度中に一定の方向性を示すことを念頭に、9月に推進主体設立に向けた準備会議を県と空港会社で立ち上げる。

▶ 当面のスケジュール

令和6年9月2日 四者協議会で推進体制準備会議立ち上げについての説明、合意

9月4日 推進体制準備会議立ち上げ（第1回準備会議開催）

⇒準備会議による検討を重ね、年度内に推進主体の一定の方向性を提示